第６回新型コロナ克服・創造山形県民会議

提言意見　土田山形県市長会長（東根市長）

１　クラスター対策について

・東根市は、空の玄関口「山形空港」、山形新幹線「さくらんぼ東根駅」、東北中央自動車道「東根 IC・東根北 IC」、仙台市と結ぶ国道 48 号など、県外と繋がる交通・運輸の大動脈であるが、12 月 22 日時点で感染者６人と感染割合は少ない。

・全国的な感染状況を見れば、山形県全体でも 11 月はじめころまでは、感染状況は抑えられていた。このような状況は、県民全体が「新たな生活様式」を実践してきた効果であり、県や医師会等の対策が功を奏したものと言える。

・11 月から現在にかけて、感染状況が拡大し、現在は県発表の対応の目安が「レベル４（特別警戒）」にまでなってしまったが、感染拡大は、病院や飲食店のクラスターが要因とはっきりしている。

・県民全体の「新しい生活様式」の実践は浸透してきていると言えるので、これからはクラスター対策を広めなければならない。

・クラスター対策をどのようにすれば効果が発揮されるのか、専門家の意見を聞きながら、山形県が全国の見本となるような対策を、県民や企業・団体などと連携し、主導していってほしい。

２　新型コロナウイルス感染症に係る予防接種について

・本予防接種は各市町村において実施することとされ、このたび厚生労働省から実施体制の構築について依頼文書が発出されている。

（令和２年１２月１７日付け健発１２１７第５号　都道府県知事、保健所設置市市長宛厚生労働省健康局長通知「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施体制の構築について（依頼）」　）

・供給が予定されている新型コロナワクチンは、冷凍での保管が必要なもの、複数回数分が１バイアル(薬剤容器)として供給されるもの､一度に配送される量が多いものなど、通常の医薬品とは異なる特性が見込まれる。

・予防接種の現状は医療機関による個別接種しか行われておらず、市町村が集団接種を実施する場合の課題は多い。

・市医師会等関係機関と協議を行い、冷蔵施設を有する接種実施会場・スタッフを確保し、住民との調整を図り、三密対策を講じながら、新型コロナワクチンを有効に接種できる体制が求められている。

・ワクチンの特性によって､「一度に多量に配送される新型コロナワクチンを有効に活用

できるよう、１０日間に計 1,000 回以上の接種を行う体制」、あるいは、「１バイアル当たりの接種回数を有効に活用できるよう、接種を行う日には、原則として 100 回以上の接種を行う体制」などが依頼されているが、市町村単独では難しい課題と考える。
・ついては、市町村が、医師会等関係機関との協議、市町村間の連携などを進めるにあたり、県において積極的な調整を行っていただきたい。

以上